様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２３ 日現在

機関番号：３３４０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2015
課題番号：２４５３１１５９

研究課題名（和文）英語の授業における意見・考えの表出を求める効果的な指導法の研究開発

研究課題名（英文）Research and Development of an Effective Way of Having Learners Express Their Ideas and Opinions in the English Classroom

研究代表者
紺渡　弘幸（Kondo, Hiroyuki）

仁愛大学・人間学部・教授

研究者番号：６０３４００３０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：　限られた授業時間の中で、高い学習効果が得られるように意見・考えを英語で発表させるためには、学習者が意見・考えを英語で適切に表現できないこと（言語面）、意見・考えを持つことができないこと（内容面）、意見・考えを表現することに不安を感じること（心理面）の3つの障害を克服する必要がある。本研究では、これらの障害を克服する効果的な指導法の研究開発に取り組み、学習者によるアウトプットの分析・評価および学習者の指導法に対する反応等に基づく有効性の検証を通して、単一のテーマについて核となる意見・考えの表出を求めるタスクを中心に組み込み、一連の手順で4技能を有機的に統合して実施する新しい指導法を提案する。

研究成果の概要（英文）：The present study addressed the research and development of an effective way of having learners express their ideas and opinions in the English classroom. It is often said that learners are unable to express themselves in English easily for the following reasons: their English proficiency is not good enough to express their thoughts, they have difficulty in forming their opinions, and they feel affective pressure in expressing their ideas and opinions. We have developed an effective way which enables learners to overcome these obstacles and verified its effectiveness by examining various aspects such as quantity and quality of learners' output, instructors' evaluation of the output, and learners' responses to the method. The teaching method we propose, Narrow Learning with a Built-in Core Task, is a skill-integrated learning process focusing on a single topic which includes a task that requires learners to express their ideas and opinions.

研究分野：英語教育学

キーワード：指導法　意見・考え　タスク　アウトプット　スキル統合　CAF　アクティブ・ラーニング

１．研究開始当初の背景

学習指導要領では「意見・考え」の伝達が重視されてきており、中学校学習指導要領（外国語）には、「話し手の意向などを理解できるようにする」、「自分の考えなどを話すことができるようにする」、「書き手の意向などを理解できるようにする」、「自分の考えなどを書くことができるようにする」といった具体的目標が示されている。単なる「事実情報」の理解・伝達にとどまらず、「意見・考え」を理解・表現する、より踏み込んだ能力を目標としている。同様に高等学校学習指導要領(外国語)でも、目標・内容において、「意見・考え」の理解・表現が重視されており、「情報や考え」という表現が用いられ、明確に「情報」と「意見」が区別されている。さらに、文部科学省は平成 20 年度の中学校学習指導要領（外国語）の改訂の基本方針の中で自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」の育成の重視を明示している（文部科学省 中学校学習指導要領解説外国語編 平成 20 年 9 月）。

しかしながら、実際行われている英語の授業では「意見・考え」を理解・表現する活動が十分に行われているとは言いがたい。この背景には、言語知識学習の偏重、意見・考えの表出に関わる認知的負荷、意見・考えを扱うことが困難であるという教師の先入観等があると思われる（大下, 2009）。このように「意見・考え」のやりとりを敬遠することは英語によるコミュニケーション能力の養成に大きな障害になる。われわれのコミュニケーションは単なる情報の授受のみならず、「意見・考え」を頻繁にやりとりしており、事実情報の伝達の活動のみに終始するような指導では、本来的なコミュニケーション能力の重要な側面を向上させることはできないと考えられる。

このことに加えて、「意見・考え」を表出させる指導には注目すべきメリットが考えられる。第一に、「意見・考え」のアウトプットは統語的な処理を促し（Swain, 1985）、さらに意味的精緻化や自己関連づけ（Craik & Tulving, 1975; Rogers, Kuiper, & Kirker, 1977; Symons & Johnson, 1997）が作用する可能性があり、言語知識の定着や自動化の促進が期待できる。第二に、単なる事実情報の伝達に見られるような紋切り型のやりとりにとどまらない豊かなコミュニケーションが生じる可能性がある（Nakahama, Tyler & Lier, 2001）。第三に、とかく幼稚になりがちな英語学習が、学習者の発達段階に見合った適切な内容のある活動になる。第四に、自分自身に意見・考えを表現することにより、個人化（personalization）が促され、学習者の英語によるコミュニケーション意欲を高める可能性がある。このような「意見・考え」を重視した英語の指導において考えられる利点が実際あるのかどうか、さらに、困難だと思われる「意見・考え」重視の指導をどのように行えばよいのか、これらは早急に明らかにすべき重要な課題である。

２．研究の目的

本研究では「英語の授業における意見・考えの表出を求める効果的な指導法の研究開発」という課題に取り組む。「意見・考え」を表出させる指導によって生じる「意見・考え」を述べた学習者のアウトプットを分析することにより、「意見・考えの表出を求める指導法」の有効性を検証するとともに、その問題点を明らかにし、より効果的な指導法を開発する。われわれは長年にわたってコミュニケーション能力をいかに育成するかという研究に取り組んできたが、その中でこの「意見・考え」のやりとりの重要性に着目し、ここ数年理論的・実証的に研究を行い、実践も試みてきている。「意見・考えを重視した指導」が英語力の向上や学習に対する意欲を高める可能性のあることが少しずつ明らかになってきており、さらにその意義と効果を明らかにする。

３．研究の方法

(1)日本人英語学習者（大学生）の書いた英作文を複雑さ、正確さ、流暢さやその他の言語形式の観点から測定・分析し、「意見・考え」の表出に見られる言語的特徴を明らかにするとともに、表出をさせる上での課題や問題点を探求する。

(2)(1)の研究成果を踏まえつつ、我が国の英語の授業において効果的な「意見・考え」を表出させる指導法を開発し、それを中学校、高等学校、大学のすべてのレベルにおいて実践し、それによって生じる学習者のアウトプットを複雑さ、正確さ、流暢さと指導者による評価の観点から分析するとともに、学習者の指導法に対する受け止めを分析して、その有効性を検証する。

(3)②の「意見・考え」を表出させる指導法を継続的に実施し、効果や問題点を明らかにし、修正・改良して、最終的により有効な「意見・考え」を表出させる指導法を開発・提案する。

【平成 24 年度】

(1) 学習者言語の分析

学習者言語の分析に関連する研究を文献調査し、複雑さ、正確さ、流暢さや「意見・考え」を表現するために使用される言語形式（思考動詞「思う・考える／賛成する・反対する」、確信度の違いを表す表現、助動詞、理由を表す表現、つなぎ言葉、条件を表す表現）のような英作文における「意見・考え」の表出に使用された学習者言語の特徴を分析する分析方法・項目を決定する。

(2)英作文の分析による意見・考え表出の特徴と問題点の把握

「意見・考え」を述べた英作文を(1)で決定した分析方法・項目で測定・分析し、日本人学習者(大学生)のライティングにおける「意

見・考え」の表出に見られる言語的特徴を明らかにするとともに、表出させる上での課題や問題点を探求する。

(3)意見・考えを表出させる効果的指導法開発のための理論的研究

「意見・考え」を表出させる指導法開発に向けての理論的研究を行う。特にアウトプット、インプットおよびインタラクションに関連する研究を文献調査し、有効な指導法を開発するための手がかりを得る。

(4)意見・考えを表出させる指導法の開発（第1次案）および実施準備

(1)～(3)の研究を踏まえて、「意見・考え」を表出させる効果的な指導法の1次案をまとめ、実施に向けて準備する。

【平成25年度】

(1)意見・考えを表出させる指導法（第1次案）の実施

大学生を対象に「意見・考え」を表出させる指導法（第1次案）を実施する。

(2) 学習者言語の記録・分析

指導法（第1次案）の実施によって生じた学習者のアウトプットを記録し、分析・考察する。

(3)意見・考えを表出させる指導法の問題点の検討および修正

学習者のアウトプットの研究によって得られた知見に基づき、「意見・考え」を表出させる指導法の問題点を検討し修正を行う。指導を補完する教育的介入についても並行して検討する。

(4)修正した意見・考えを表出させる指導法の実施

修正した「意見・考え」を表出させる指導法を継続的に実施する。

(5) 学習者のアウトプットの記録・分析

修正した指導法の実施によって生じた学習者のアウトプットを記録し分析する。

(6)意見・考えを表出させる指導法の改良（第2次案）

「意見・考え」を表出させる指導法を再検討・修正し、第2次案をまとめる。

【平成26年度】

(1)意見・考えを表出させる指導法（第2次案）の効果の検証

「意見・考え」表出タスク（第2次案）を中学・高等学校・大学で実施し、指導によって生じた学習者のアウトプットを記録・分析して、その効果を検証する。

(2)意見・考えを表出させる指導法（第2次案）の改善

これまでの研究成果を踏まえて、「意見・考え」を表出させる指導法（第2次案）を再検討、問題点を改善する。

【平成27年度】

(1) 研究のまとめ

研究成果を総括し、開発してきた指導法の有効性について、この指導法を実施して得られた学習者のアウトプットの複雑さ、正確さ、流暢さと評価の変化に関する分析やこのタスクに対する学習者の反応に基づいて検証して得られた結果をまとめる。

(2) 指導法の最終的提案

これまでの研究で明らかになった課題と研究協力者による中学校および高等学校での指導法の実践結果を踏まえて、より多様な意見や考えがやりとりできるように、提案する指導法をさらに改良・拡張し、意見・考えの表出を求める効果的な指導法の最終案を提案する。

(3) 報告書作成

本研究開発の締めくくりとして、これまでの研究成果をまとめた報告書を別途作成する。

４．研究成果

(1) 日本人学習者(大学生)のライティングにおける「意見・考え」の表出に見られる言語的特徴

「意見・考え」を表現するために使用される言語形式（意見を述べる動詞、確信度の違いを表す表現、助動詞、理由を表す表現、つなぎ言葉、条件を表す表現）に関して、日本人学習者と母語話者の間に違いが見られ、母語の獲得に比べて、英語のインプットが限られる我々のEFL環境では、学習した言語知識を意見・考えを表現するために繰り返し使用するアウトプットの重要性が示唆された。

(2) 意見・考えを表出させる指導法の効果の検証

①複雑さ（Complexity），正確さ（Accuracy），流暢さ（Fluency）

学習者に賛否を問う命題を提示して、意見・考えの表出を求めるAD Taskの学習を促進する効果について、学習者がこのタスクの中で書いた作文を複雑さ（Complexity），正確さ（Accuracy），流暢さ（Fluency）の観点から分析して再検証した。その結果、正確さと流暢さにおいて向上が見られ、タスクの有効性が認められた。

②作文の評価

作文の評価は指導者によるholisticな評価であった。指導の前半と後半で評価の平均得点を比較すると、参加者全員において向上が見られ、作文の内容や構成も含めた評価の点からもこの指導法の有効性が再確認された。

③学習者の受け止め

この指導法に関する調査では、指導を受けた学習者のうち、「おもしろかった」、「やりがいを感じた」と回答した者が多く、動機づけの効果が期待できる。また、実際の学習効果についてはパラグラフの構成に慣れたと回答する者が多く、「英語で意見・考えを述べることに慣れてきた」、「英語で意見・考え

を書くことに慣れてきた」、「スムーズに書けるようになってきた」、「使える語彙や表現が増えた」の各項目についても肯定的な回答が多かった。「この活動を継続して行うと、英語で意見・考えを表現する力が向上すると思う」との回答も多く、開発した指導法の良好な学習効果が示された。

(3)意見・考えの表出を求める効果的な指導法の提案

本研究の成果として「Core Task を中心とした Narrow Learning」を英語の授業における意見・考えの表出を求める効果的な指導法として最終的に提案する。これは一連の指導手順からなる複合的な学習プロセスであり、Narrow Learning with a Built-in Core Task（NLBCT）と呼ぶ。

NLBCT は単一のテーマについて、核となる意見・考えの表出を求めるタスク（Core Task）を中心に組み込んだ、共通する一連の指導手順で４技能を有機的に統合して実施する複合的な学習プロセスである。

①NLBCT で扱われるテーマ

NLBCT は選択された１つのテーマに絞って行われる学習である。テーマは学習者の興味・関心や関わりの度合い、発達段階、教育的価値等に配慮して、慎重に選択する必要がある。英語の授業で取り上げる必要性、テーマ自体の発展性やテーマ間の有機的関連等を考慮し、全体的なまとまりを視野に入れつつ、シラバスの中に計画的に位置づけられるべきである。中学校や高校であれば、教科書で学習したテーマを活用して、それについてさらに深め、発展させるように実施するのが望ましい。

②Narrow Learning に組み込まれる Core Task

意見・考えを表出させる Core Task には以下のようなものが考えられる。

・Agree/Disagree Task

ある命題に対して賛成か反対か自分の意見を主張する。

・Problem-Solving Task

ある問題に対して理由を示して有効な解決策を提案する。

・Comparison Task

ある特定の観点から複数の項目の比較を行う。

・ Ordering Task

価値判断や優先順位の分析から、根拠を述べて複数の項目の順序づけを行う。

・ Selection Task

ある観点に基づいて複数の項目の中からもっとも適合するものを選択する。

・ Reasoning Task

ある仮定に立って論理的に帰結を導く推論を行う。

・ Affective Task

ある事柄に対する心理や感情を表現する。

③NLBCT の指導手順とスキルの有機的統合

NLBCT の指導手順は以下の 3 つの段階に分けられる。

・第 1 段階：プレタスク・ステージ（Pre-task Stage）

Core Task を実施する準備の段階であり、Narrow Learning のテーマを導入し、その理解度を確認し、必要に応じてそれに関する知識を提供する。授業で教科書を用いた指導を行い、学習者がその単元の内容に関する必要な知識を得るようにするのが望ましい。教科書の内容と異なる内容を取り上げる場合は、それに関する学習者のスキーマが意見・考えの形成に十分であるかどうかを確認し、必要ならばスキーマを提供するインプット活動を指導のこの段階で行うことになる。併せて、テーマに関わる語彙や表現もインプットし、確認しておく。

・第 2 段階：コアタスク・ステージ（Core Task Stage）

この段階では適切に選択された Core Task を行う。Core Task は以下の手順で行われる。

・準備（Preparation）
- Introductory talk（5 分間）
- Writing a speech memo（2 分間）
- Practice（1 分間）

・意見交換（Sharing ideas and opinions）
- Speech in pairs 1（1 分間×2）
- Reflection 1（1 分間）
- Speech in pairs 2（1 分間×2）
- Reflection 2（1 分間）
- Speech in front of the class（5 分間）

・まとめ（Summary）
- Writing an opinion paragraph（10 分間）

この Core Task では時間を制限して行うが、授業の時間的制約（中学校・高等学校の通常の授業時間 50 分）に対応して実施し易いだけでなく、意見・考えをスピーディにまとめることや分かりやすく表出すること、話したり、書いたりする際の fluency を高めることをねらいとしている。もちろん意図的に時間を十分取って実施する場合は、手順を複数の授業に分割して実施することも可能である。

・第 3 段階：ポストタスク・ステージ（Post-task Stage）

この段階では、クラス全体で意見・考えを共有したり、議論したりする。ペアでの意見交換を通してひととおり自分の意見・考えを表現できるようになっているので、抵抗なくクラス全体でより多様な意見・考えをやりとりすることができる。議論は内容的に深まり、言語的にも進展し、質的向上が期待できる。より大きな心理的な負荷を感じる集団で発表を経験することにより、英語で自分の意見・考えを話す自信を高めることもできる。

この段階でのもう１つの重要な指導は、意見・考えのアウトプットに観察される誤りについてのフィードバックである。

学習の効率を考慮して明示的な言語形式に関するフィードバックを行う。明示的な指導には、形式と意味や機能の対応づけだけでなく、必要に応じて語彙の特徴、類義語やコロケーション、構文、文法規則といった言語知識を含める。

④NLBCT の利点

本研究で得られた結果から NLBCT には以下のようなメリットが考えられる。

(1) 1 つのテーマを軸にした 4 技能の自然な統合
(2) 「意見・考え」のアウトプットによる統語的な処理や気づきの促進
(3) 意味的精緻化や自己関連づけによる言語知識の記憶保持の強化
(4) 言語知識の自動化の促進
(5) 豊かなコミュニケーションの生起
(6) 学習者の発達段階に見合った適切な内容のある活動
(7) 英語によるコミュニケーション意欲の向上
(8) 言語学習と内容に関する学習の統合
(9) よりダイナミックなアクティブ・ラーニングの実現
(10) 実施のし易さ

改訂された新学習指導要領では、授業を英語で行うことが求められているが、英語での指導では使用される英語や伝達内容は易しくなりがちで、Cummins(1979)のいう BICS（基礎的対人伝達能力）は伸ばすことができるが、高度な内容を扱う CALP（認知的学習言語能力）は制限されることになりかねない。その点、本研究で追求する「意見・考え」を表出させる指導は、CALP も高めることが期待されるという点で日本の英語の指導状況・学習環境に適した有効な指導法であると考えられる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　４件）

紺渡弘幸 (2015). 「英語の授業における意見・考えの表出を求める効果的な指導法－問題解決型タスクの効果と課題－」『中部地区英語教育学会紀要』第 44 号, 163-168.

紺渡弘幸 (2014). 「英語の授業における意見・考えの表出を求める効果的な指導」『中部地区英語教育学会紀要』第 43 号, 201-206.

紺渡弘幸(2014). 意見･考えの表出を求める指導法の L2 ライティングにおける効果『仁愛大学研究紀要　人間学部篇』 第 13 号, 33-39.

紺渡弘幸(2013). Instruction focusing on ideas and opinions and the learning of linguistic forms. 『仁愛大学研究紀要 人間学部篇』 第 12 号, 23-31.

〔学会発表〕（計　６件）

紺渡弘幸　「英語の授業における意見・考えの表出を求める効果的な指導法の研究開発－意見・考えを表現するために用いられた言語形式の分析から得られる示唆」. 第 41 回全国英語教育学会　熊本研究大会　2015 年 8 月 22 日. 熊本学園大学

紺渡弘幸　「英語の授業における意見・考えの表出を求める効果的な指導法」. 第 45 回中部地区英語教育学会　和歌山大会. 2015 年 6 月 28 日. 和歌山大学

紺渡弘幸「意見・考えを重視した英語授業の展開」　第 38 回東海北陸公立中学校英語教育研究会(招待講演) 2014 年 8 月 19 日. 福井県国際交流会館

紺渡弘幸「英語の授業における意見・考えの表出を求める効果的な指導法－問題解決タスクの効果と課題」　第 44 回中部地区英語教育学会　山梨大会. 2014 年 6 月 22 日. 山梨大学

紺渡弘幸「英語の授業における意見・考えの表出を求める効果的な指導法の研究開発－意見・考えを表現するために用いられた言語形式の分析から得られる示唆」　第 39 回全国英語教育学会　札幌研究大会　2013 年 8 月 10 日. 北星学園大学

紺渡弘幸「英語の授業における意見・考えの表出を求める効果的な指導法」　第 43 回中部地区英語教育学会　富山大会. 2013 年 6 月 30 日. 富山大学

〔図書〕（計　1 件）

大下邦幸、紺渡弘幸、田中武夫共編著(2014). 『意見・考え重視の視点からの英語授業改革』東京：東京書籍

６．研究組織

研究代表者

紺渡　弘幸（KONDO HIROYUKI）

仁愛大学・人間学部　教授

研究者番号：60340030